九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国延辺地区朝鮮語の歯茎破擦音と口蓋音化

宮下，尚子
九州大学大学院比較社会文化学府

https://doi.org/10.15017/4494493

出版情報：比較社会文化研究. 8, pp.91-96, 2000-10. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

『比較社会文化研究』第８号（2000）91～96頁
Social and Cultural Studies
No.8（2000），pp.91～96

中国延辺地区朝鮮語の歯茎破擦音と口蓋音化

宮下尚子

０．はじめに
１．延辺朝鮮族自治州とその朝鮮語
２．朝鮮語の口蓋音化現象に関する先行研究
３．延辺朝鮮語における/c/と/t/の音声実現および口蓋音化の実際
４．おわりに

０．はじめに

本稿は，中華人民共和国吉林省延辺朝鮮族自治州において公用語の一つとして用いられる朝鮮語（以下，延辺朝鮮語とする）の歯茎破擦音とその口蓋音化現象について論じたものである。延辺朝鮮語は咸鏡道方言を基盤とする言語であるというのが広く認められている見解である。住民（朝鮮族）の大部分が咸鏡道を故郷とすることからも，これは妥当な見解だといえる。ところが，朝鮮語における共時的な口蓋音化とそれが引き起こしたであろう音韻変化という観点から延辺朝鮮語を見た場合，朝鮮語の諸方言のうち口蓋音化および音素/c/【注1】の硬口蓋音への変化[ts]>[tʃ]を起こさなかったのは西北方言すなわち平安道方言だけだという従来の見解とは異なる現実に気づく。それは，延辺朝鮮語においては「ㅈ,ㅊ,ㅉ」（/c,ch,'c/）が歯茎破擦音[ts/dz,tsh,'ts]として音声的に実現されることである。

（1）a. 자기　/caki/　[tsagi]～[tʃagi]
　　“自分”
　　b. 참새　/chamsɛ/　[tsamsɛ]～[tʃamsɛ]
　　“すずめ”
　　c. 짜리　/'cari/　['tsa:ri]～['tʃa:ri]
　　“ツァーリ（ロシア皇帝）”

この発音には個人差も大きい。1995年に延辺電視台において製作，放送された延辺（主に延吉市と龍井市）を舞台にした連続テレビドラマ『사강의 픔』（漢語題名《白雪花》）を視聴した結果，若干口蓋音化した硬口蓋歯茎音（palato-alveolar）を用いる話者もいる。朝鮮語を母語とする延辺の若年層では一般に非口蓋音性がより強いと言えるだろう。

規範的には「ㅈ」は常に[tʃ]と発音されるべきだと考えられているためか，延辺地区や北京で出版された朝鮮族朝鮮語に関する文法書や辞書には「ㅈ」は常に[tʃ]として説明されている。しかし，実際には延辺朝鮮語の「ㅈ」/c/の主変異音は非口蓋音性のつよい[ts]である。このことを記述したものには，小学館（1993）がある。

許雄（1964），金英培（1978）によれば，平安道方言においても，「ㅈ,ㅊ,ㅉ」（/c,ch,'c/）は歯茎破擦音[ts/dz,tsh,'ts]として実現される。ところが，平安道方言と延辺朝鮮語が異なる点は，平安道方言においては/c/はどの母音の前にあっても[ts/dz,tsh,'ts]の音価を維持しつづけ口蓋音化に抵抗しているとされるのに反し，延辺朝鮮語の/c,ch,'c/は前舌狭母音/i/の前では口蓋音化して硬口蓋破擦音[tʃ/dʒ,tʃh,'tʃ]となる点である。（2）は延辺朝鮮語における歯茎破擦音の口蓋音化の例である。

（2）a. 아보지 /apoci/　[abodʒi]　“父”
　　b. 치마　/cima/　[tʃhima]　“スカート”
　　c. 찌끼　/'ci'ki/　['tʃi'ki]　“おり”

本稿ではおもに延辺朝鮮語における/c/の音声実現を朝鮮語の他の方言と対比しながら，それが口蓋音化と関わる点を中心に分析し，延辺朝鮮語が朝鮮半島内の方言とは異なった/c/の異音の分布を持つと明確に示すことを目的とする。

1章では延辺朝鮮族自治州とその朝鮮語である延辺朝鮮語に関して概説する。これは，後述するように延辺朝鮮語が朝鮮語の諸方言と漢語との二言語併用による干渉下にあるという言語的な背景を考慮した所以である。2章では朝鮮語の口蓋音化と，口蓋音化がもたらした音韻変化の歴史的な過程について，それぞれ先行研究を参考にしながら概説する。3章では朝鮮語を母語とする中国朝鮮族のインフォーマント（1973年中国吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市生まれ，

男性）から得られた結果を基に，延辺朝鮮語の/c/の音声実現についてそれが口蓋音化と関わる点を中心に分析する。4章では結論として延辺朝鮮語の非口蓋化音[ts]が延辺朝鮮語にもたらした影響について述べる。

なお，必要に応じてハングルを用い，音素記号による転写を付した。朝鮮語の音素の目録は以下（表1）に示す通りである。

表1：延辺朝鮮語の音素目録

子音：	p(ㅂ)	t(ㄷ)	c(ㅈ)		k(ㄱ)	h(ㅎ)
	ph(ㅍ)	th(ㅌ)	ch(ㅊ)	s(ㅅ)	kh(ㅋ)	
	p′(ㅃ)	t′(ㄸ)	c′(ㅉ)	s′(ㅆ)	k′(ㄲ)	
	m(ㅁ)	n(ㄴ)	r(ㄹ)		ŋ(ㅇ)	

母　音：	前舌非円唇	前舌円唇	後舌非円唇	後舌円唇
半母音	j			w
狭	i(이)	y(위)	ɯ(으)	u(우)
中	e(에)	ø(외)	ə(어)	o(오)
広	ɛ(애)		a(아)	

1．延辺朝鮮族自治州とその朝鮮語

延辺朝鮮族自治州は，延吉市を州都とする民族自治州である。州の公用語は朝鮮語と漢語（中国語）である。1952年に自治区として創設され，1955年に自治州と改称した。豆満江をはさんで朝鮮民主主義人民共和国及びロシアと国境を接し，中国の朝鮮族全体の約半数が居住する他，漢族，満族，回族，モンゴル族が居住する。行政単位として延吉市，図們市，琿春市，龍井市，和龍市，敦化市，安図県，汪清県の6市およびの2県を含む。州都は延吉市。1990年現在人口約208万人。朝鮮族が州全体に占める人口比率は40パーセントになる（人口統計については社団法人中国研究所編（1990）『中国年鑑1990年版別冊　東北三省データファイル』を参考にした）。

最近中国で発行された延辺朝鮮族自治州の朝鮮族および朝鮮語に関係する資料で入手できたもののうち，ほとんどのものが1982年の全国普遍統計調査資料と呼ばれるものに方言人口の統計を依拠している。つまり，住民がそれぞれ本籍地の言語を使用するという仮説に基づいた報告である。例えば，심·리（1990）は，延辺地方において100名以上の人口を持つ村を対象として，1982年度全国普遍調査統計資料と戸籍主の本籍地をもとにして方言使用者の数を出している。方言を同定するための言語的な特徴付けや語彙の分布等に関してはなにも述べられてはいないので，実地の言語調査は行わなかったものと考えられる。同論文では結論として延辺の各地方に分布する重要な方言は咸鏡道方言であるとしている。서영섭（1991）においても同様の見解（朝鮮族人口の93.3パーセントが吉林省，遼寧省，黒竜江省の東北三省と呼ばれる地域に居住しており，だいたいとしては吉林省には朝鮮東北方言の保有者が多く，黒竜江省には東南方言，遼寧省には西北方言の保有者が多いということ）を伺うことができる【注2】。

梅田（1993：132）は，咸鏡道方言系の延辺朝鮮語について移住の第一世代を含めた様々な世代について調査を行い，音韻について述べたもので，現在のところ最も信頼性の高い資料のひとつだと言える。「ㅈ」/c/に関しては「硬口蓋音/c，ch，c′/は口蓋化が少なく，非前舌閉母音/i，u，o/のまえで非口蓋性が強い」としている。

2．朝鮮語の口蓋音化現象に関する先行研究

15世紀から17世紀にかけて起こった口蓋音化によって、[ts]という舌端と歯茎とで調音される無気の破擦音が，後続するi，jという母音および半母音の舌の位置に引かれて上後方の硬口蓋に近づき，その位置での破擦音[tʃ]に変化した。朝鮮語でははじめは[tʃ]は音素/c/の異音であったが，やがてこの条件から離れて独立の音素となったと考えられる。その結果，口蓋音化と音韻変化が起こった方言においては/c/に後続する/a/:/ja/は対立の機能を果たさなくなった。/c/の口蓋音化との他に/t/の口蓋音化も起こったとされているが，こちらも母音iおよび半母音iの前で[t]が[tʃ]になる変化がおこったために，近世語文献の中で/t/の異音である[tʃ]と/c/の異音である[tʃ]が表記上で区別できなくなるなどの混乱が起こった【注3】。

許雄（1964）をはじめとする朝鮮語の口蓋音化に関する先行研究は，中世朝鮮語の「ㅈ」/c/が現代朝鮮語（主に南部方言）の「ㅈ」/c/とは違う音価であったことを提示するという点では示唆に富むが，「ㅈ」/c/がなぜ[ts]>[tʃ]への音化変動を起こしたか，あるいはその時期等については明言していない。「ㄷ」/t/の口蓋音化とのかかわりについて明言のできない理由は，資料の制約のために文献上の確実な時期を確定できないこと，（文献によることが）間接的方法であるために、ㅈ，ㅊ，ㅅ等の歯音が/a/:/ja/に後続される時に起こる混乱がすなわち「ㅈ」/c/口蓋音化の影響であるとみなすことがまだ推論の域を超えないためであるとしている（李明奎1974：44）。

宣・他（1985：111）によると，朝鮮半島で行われる6つの方言，即ち西北方言（平安南北道方言），東北方言（咸鏡南北道），中部方言（京畿道，黄海南北道，江原道，忠清南北道方言），西南方言（全羅南北道），東南方言（慶尚南北道），済州島方言のうち，済州島方言を除く5つの方言が吉林省，遼寧省，黒竜江省の東北三省で用いられているという。同書では諸方言の対照のために，朝鮮語の6つの方言

（済州島方言を除き，上の5つの区分の他に中北方言という範疇を加えている）をそれぞれ代表する地点を1つずつ選び（遼寧省蓋県西海農場：西北方言，吉林省和龍県龍門郷亜東村：中北方言，吉林省琿春県敬信郷回龍峰村：東北方言，黒竜江省泰来県四里五郷曙光村：東南方言，吉林省柳河県姜家店郷京畿屯：中部方言，吉林省蛟河県天北郷永進村：西南方言），音韻，語法，語彙についてまとめている。口蓋音化と関連があると思われる例を以下（3a-f）に挙げる。

（3） a. /i/が/k/に後続する場合の/k/の口蓋音化（[k]→[tʃ]）
b. 半母音/j/の後続による音節初頭子音[k]→[tʃ]の口蓋音化および[j]の脱落
c. 中世文献の/t/に/i/が後続する場合の/t/の口蓋音化（[t]→[tʃ]）
d. 中世文献の/tj/における[j]の脱落あるいは[t]の口蓋音化
e. 中世文献の/ni/における音節初頭音[n]の脱落
f. 中世文献の/nj/における[j]の脱落あるいは[n]の口蓋音化

	柳河	琿春	蓋県	和龍	蛟河	泰来
a. /kir/（道）	kir	kir	kir	tʃir	tʃir	tʃir
b. /kjəth /（傍ら）	kjət	kjət	ket	tʃət	tʃət	tʃət
c. /paci/（ずぼん）	patʃi	pati	pati	patʃi	patʃi	tʃu˜wu
d. /cotha/（好い）（中世語/tjos-/）	tʃotha	tjotha	totha	tʃotha	tʃotha	tʃotha
e. /ni/（虱）	i	ni	ni	i	i	i
f. /njərum/夏（中世語/njərʌm/）	jərɯm	njərɯm	nərɯm	jərɯm	jərɯm	jərəm

上に挙げた例はおそらく音素表記だと思われるので，有声音間の無気音（平音）がどの程度濁音化しているのか，tやtʃとされるものがどのような音声実現を表すかについては不明である。しかし，3aと3bがk口蓋音化，3cと3dがt口蓋音化，3eと3fがn脱落の諸方言における様相を示すという意図は明らかである。3a-3c-3e，3b-3d-3fはそれぞれ子音+母音iと子音+半母音jという対応関係を示している。

これによると，吉林省琿春（東北方言）と遼寧省蓋県（西北方言）では，共に全ての口蓋音化が起きていないことがわかる。(3c) 바지/paci/（ずぼん）は，中世語では바디/pati/なので，これを[padi]と発音する方言は/t/の第一段階の口蓋音化さえ起こしていないことになる。そして，吉林省琿春の朝鮮語においては，蓋県においてiの前で脱落した半母音jが保たれている。

西北方言（ここでは遼寧省蓋県に相当する）がk口蓋音化，t口蓋音化，n口蓋音化いずれの変化も起こしていない，というのは李基文（1972），許雄（1964）などの論と一致する。しかし，上の例では東北方言と東南方言は口蓋音化という観点からは対極にあり，李基文（1972：225）の「互いに似ている」という記述とは相違する。また，(3a) と（3b）のk口蓋音化については河野（1945（1979）：274-280）にも길/kir/（道）の方言地図（p.276）が作成・掲載されている。それによるとk口蓋音化を起こすのは「忠清南道の殆ど全地域及び咸鏡南，北道の大部分」（p.275）であるが，宣・他（1985）においてそれぞれ該当するとされる記述は河野の調査結果とは一致しない。もっとも，これは中国において行われる朝鮮語の記述なので，その結果が朝鮮半島において約半世紀前に行われた調査の記述と一致しないのはむしろ当然のことと考えるべきであろう。

更に，宣・他（1985）では中国の中で朝鮮語がもっとも広く用いられる延吉市の言語状況がどうであるかということには一切触れられていない。また，これは技術的な問題に過ぎないのかもしれないが，これからわれわれが問題にしようとしている「ㅈ」は一貫してtʃで転写されており，具体的にどのような発音上の特徴を持つのかは明らかにされない点から，編集のねらいとしては記述よりも規範を主体としたと考えざるをえない。特筆すべきは，iに先行するrおよびi，jに先行するnは脱落する（宣・他（1985：15-16））と記載されていることである。確かに，朝鮮半島南部の方言では「n」はi，yの前では口蓋音化した[nj]となり，後に弱化して脱落した（李基文1972：198)。延辺朝鮮語においても話者間で揺れが生じることがあるが，上の琿春市の例でも分かるように，この言語では口蓋音化による語頭子音の弱化および脱落が起こりにくいため，口蓋音価→弱化→脱落という流れに対抗して，未だに発音の上でも表記の上でも音節初頭音としての/n/を前舌狭母音/i/，半母音/y/の前で保っている。(4) は音節初頭子音が保たれている例である。

（4） a. 녀자 /njəca/ [njədza]～[ɲədza] 女
b. 님 /nim/ [njim]～[ɲim] いとしい人

3．延辺朝鮮語における/c/と/t/の音声実現および口蓋音化の実際

朝鮮語の音節は，伝統的に初声と呼ばれる音節初頭子音と中声と呼ばれる母音又は半母音，終声とよばれる音節末子音により成り立つ。音節末子音のない音節もある。音節末子音は必ず次の音節の初頭子音と母音と共に音節を形成し，独立の単位になることはない。この音節構造は延辺朝鮮語においても同様である。ここでは，「ㅈ」（/c/）「ㅊ」/ch/について母音との結合をそれぞれ見ていくことにする。

延辺朝鮮語の特徴のひとつは，前舌母音e（에）とɛ（애）の開閉の対立が明確なことである。また，南部方言（韓国語）では二重母音とされているy（위）およびφ（외）がそれぞれi（이）とe（에）の円唇母音として発音されることである。半母音j，wは母音に先行して二重母音をつくるが，単独で音節になれないところが子音と共通している。口蓋音化を形成するのに重要な役割を果たす前舌非円唇の半母音jはa，e，u，o，ə，ɛに先行して二重母音ja，je，ju，jo，jə，jɛとなる。

子音「ㅈ」（/c/）「ㅊ」(/ch/）と各母音との結びつきは以下のようになる。左から順に語彙（ハングル），スラッシュ//の中は音素表記，括弧[ ]の中は発音，括弧“ ”の中は日本語訳である。（5）は無気音（朝鮮語学においては伝統的に平音という），（6）は有気音（朝鮮語学においては伝統的に激音という）における語彙をそれぞれ示した。

（5）a. c+a　자기/caki/[tsagi]“自分”
　　사자/saca/[sadza]“ライオン”
　b. c+ɛ　재자/cɛca/[tsɛdza]“才子”
　c. c+ə　저/cə/[tsə]“私”
　　먼저/məncə/[məndzə]“先に”
　d. c+e　제비/cepi/[tsebi]“つばめ”
　　언제/ənce/[əndze]“いつ”
　e. c+o　조류/corju/[tsorju]“鳥類”
　　문조/munco/[mundzo]“文鳥”
　f. c+φ　죄/cφ/[tsφ]“罪”
　g. c+u　주둥이/cutuŋi/[tsuduŋi]“嘴”
　　밥줄/papcur/[paptsul]“飯碗”
　h. c+y　쥐/cy/[tsy]“ねずみ”
　　박쥐/pakcy/[paktsy]“こうもり”
　i. c+ɯ　즈음/cɯɯm/[tsɯɯm]“際”
　　아즈마이/acɯmai/[adzɯmai]“おば”
　j. c+i　지라/cira/[tʃira]“脾臓”
　　아버지/apəci/[abədʒi]“父”
　k. c+j　쟤/cjɛ/[tʃjɛ]“あの子”

（6）a. ch+a　참새/chamsɛ/[tshamsɛ]“雀”
　　마차/macha/[matsha]“馬車”
　b. ch+ɛ　재채기/cɛchɛgi/[tsɛtshɛgi]“くしゃみ”
　c. ch+ə　처/chə/[tshə]“妻”
　d. ch+e　체육/chejuk/[tshejuk]“体育”
　e. ch+o　초/cho/[tsho]“酢”
　　삼촌/samchon/[samtshon]“父方のおじ”
　f. ch+φ　최면/chφmjən/[tshφmjən]“催眠”
　g. ch+u　대추/tɛchu/[tɛtshu]“棗”
　h. ch+y　취/chy/[tshy]“嘴”
　i. ch+ɯ　층집/chɯmcip/ [tshɯmdʒip]“二階建て以上の家”
　j. ch+i　침/chim/[tʃhim]“唾”
　　까치/'kachi/['katʃhi]“かささぎ”
　k. ch+j　찬스/chjansɯ/[tʃjansɯ]“チャンス”

口蓋音化の起こる環境において，注意深く発音する場合は破擦音から半母音[j]へのわたりが意識的に長く発音されることもあるが，/cV/と/cjV/の弁別は/c/の口蓋音化によってより明確に特徴づけられる。次（7）の最小対立は，音節初頭子音「ㅈ」（/c/）において後続する母音が/j/で始まるかそうでないかが弁別機能を持つことを示したものである。

（7）a. 줄 /cul/　[tsul]　“縄”
　　b. 쥴 /cjul/　[tʃjul]　“ジュール（熱量）”

/c/および/ch/に半母音/j/が後続するのは，名詞では主に外来語の場合に限られる。/cja/，/cjə/，/cju/，/cjo/，/chja/，/chj /，/chju/，/chjo/の各結合において語彙が全て存在するわけではない。/cj/および/chj/系列のあきま（gap）は近代以後の外来語の登場によって充填されつつある。（8）は/c-/，/cj-/，/ch-/，/chj-/が母音/a/，/ə/，/o/，/u/を結びついてできた語彙を示したものである。空欄（----）は対応語彙がみつからないことを示す。

（8）

ㅈ/c/

/c-/		/cj-/
ㅏ/a/	자 /ca/[tsa] “車”	쟈크 /cjakh /[tʃjakhɯ] “チャック”
ㅓ/ /	저 /cə/[tsə]“箸”	-----
ㅗ/o/	조 /co/[tso]“粟”	죠세트/cjoseth /[tʃjo:ʃet] “ジョーゼット織”
ㅜ/u/	줄 /cul/[tsul]“縄”	쥬스 /cjusɯ/[tʃjusɯ] “ジュース”

ㅊ/ch/

/ch-/		/chj-/
ㅏ/a/	차 /cha/[tsha]“車”	챤스/chans /[tʃhjansɯ]

			“チャンス”
ㅓ/ /	처/cə/[tshə] “妻”	쳐든각/chjəduŋkak/ [tʃhjəduŋgak] “仰角”
ㅗ/o/	초/cho/[tsho] “蝋燭”	쵸콜레트/chjokhorrethɯ/ [tʃhokhollethɯ] “チョコレート”
ㅜ/u/	추/chu/[tshu] “秤”	-----

南部方言（韓国語）の場合は，/c/が全ての母音と半母音の前において既に口蓋化してしまった結果，/ca,cha/と/cja，chja/の調音上の差は半母音/j/のわたりが速いか遅いかにしか現れず，現実的には/c/のあとの半母音/j/は音素としての機能を持たない。したがって，南部方言においては形態素内において表記の上で/cj/および/chj/系列の表記が用いられることはほとんどない（語幹がㅈ，ㅊで終わる動詞に接辞-어/-ə等が膠着して-져/-cjə/，-쳐/-chjə/ という形態が派生することがある）。外来語の表記はㅈ스[tʃuːsɯ] “ジュース”（延辺朝鮮語では쥬스[tʃjusɯ]）のように表記される。

4．おわりに

以上，延辺朝鮮語の歯茎破擦音[ts]と共時的な口蓋音化現象がもたらす異音を中心に分析を試みた。その結果，延辺朝鮮語は「ㅈ」/c/の主変異音[ts/dz]は口蓋音化した異音[tʃ/d]を持つことが明らかになった。また，南部方言においては弁別機能を持たない「ㅈ,ㅊ,ㅉ」（/c,ch,'c/）の後の半母音が，延辺朝鮮語においては弁別機能を果たすことを明らかにした。しかし，この言語では/c/において[ts]>[tʃ]の音化変動が起きなかったため（あるいは，延辺朝鮮語の歯茎破擦音は旧相を保っているのではなく，諸方言，特に西北(平安道）方言との接触の結果，従来の主変異音[tʃ]から[ts]へ音価変動を起こした結果生じたものかもしれない），音韻体系としては/c/と/cj/は中和されずに対立を残したが，/cj/および/chj/系列の対応語彙は/c-//ch-/に収斂されているために体系上に語彙が存在しないというあきまが生じていることが明らかになった。

延辺朝鮮語がなぜ歯茎破擦音[ts]を持つに至ったのかという根本的な疑問は明らかにできなかった。音韻変化は必ず既成の音韻体系の制約を受けるので，ひとつの音素に執着すべきではない。延辺朝鮮語における諸特徴，例えば語頭のnが前舌狭母音の前においても脱落しないこと，漢字語において語頭のrを発音すること等は，口蓋音化>弱化>脱落という（韓国語が被ってきた一連の音韻変化の一過程あるいはあらたに生じた分岐を考えるならば、延辺朝鮮語の音韻変化（あるいは不変化）の原因となる別の構造が見えてくるかもしれない。その他，接触言語・方言として延辺朝鮮語がどのような変遷を遂げつつあるかという通時的な問題については別の機会に論じたい。

参考文献

Crystal, David. 1980-1,1997-4. A Dictionary of Linguistic and Phonetic. Oxford:Blackwell.

Ladeforged, Peter. 1975-1, 1982-2. A Course in Phonetics. New York: Harcourt(2nd.ed.,HBJ).

Umeda, Hiroyuki.1957.'The Phonemic System of Modern Korean'. 『言語研究』32:60-82.

宣徳五・金祥元・趙習編著.1985.『朝鮮語簡志』（国家民委民族問題五種従書之一　中国少数民族言語簡志従書）北京:民族出版社.

姜信沆.1993. 『ハングルの成立と歴史』.東京:大修館書店.

곽충구.1980.「十八世紀 國語의 音韻論的 硏究」『國語硏究』43.

金英培.1978.「平安方言의 舊相 -音韻과 語彙를 中心으로-」『東國語文論文集』11:15-31..

서영섭.1991.「중국에서의 조선어사용현황과 거기에서 제기되는 문제」『조선언어문학론문법』.中央民族学院　民語一系朝鮮語研究室.北京:民族出版社

宋敏.1986.『前期近代國語音韻論硏究 -특히 口蓋音化와 ·音를 中心으로-』（國語學叢書 8）.서울:塔出版社.

宋枝学.1957-1, 1973（増補26版）『基礎朝鮮語』東京:大学書林.

심희섭,리윤구.1990.「연변에서의 조선어방언분포」『저선학연구』2: 70-93.연길:연변대학출판사.

육효창.1998.「중세 국어 齒音의 음가 재고」『국어국문학』121:25-54.

李基文.1984.『國語音韻論』.서울:學硏社.

李基文.1972.『改訂 國語史概說』.서울:塔出版社.（藤本幸夫訳.1975.『韓国語の歴史』.東京：大修館書店.）

李明奎.1974.「口蓋音化現象의 史的考察」『國語硏究』31.

李崇寧.1955.『音韻論硏究』.서울:民衆書館.

李秉根.1976.「派生語形成과 i逆行同化規則들」『震檀學報』42:99-112.

최윤갑.1987.『중세조선어문법』.연길:연변대학출판사.

許雄.1964.「齒音攷」『국어국문학』27:45-54.

許雄.1965.『改稿新版 國語音韻學』.서울:正音社.(初版.1958.『國語音韻論』)

石原六三・青山秀夫編著.1963.『朝鮮語四週間』.東京:大学書林.

梅田博之.1992.「朝鮮語」『言語学大辞典』第2巻.950-980.東京:三省堂.

梅田博之.1993.「延辺朝鮮語の音韻」『「言語文化接触に関する研究」共同研究報告』6:131-145.中嶋幹起編.東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

大村益夫.1987.「中国の朝鮮族とその言語」『ILT NEWS』81:26-47

大村益夫.1995.「延辺朝鮮族自治州」『世界民族問題用語事典』:235-236.松原正毅編集代表・総合研究開発機構（NIRA）編集.東京:平凡社.

小倉進平.1964.『増訂補注　朝鮮語学史』.東京:刀江書院.

河野六郎.1945.『朝鮮方言學試攷－「鋏」語考－』.京城:東京書籍株式会社.(1979.『河野六郎 著作集』1:101-373東京:平凡社.所収)

河野六郎.1955.「朝鮮語」市川三喜・高津春繁・服部四郎編.『世界言語概説』2:357-439.東京:研究社.（1979『河野六郎著作集』1:3-78.東京:平凡社.所収）

菅野裕臣・長璋吉.1982.「延辺朝鮮族自治州訪問報告」『朝鮮学報』103:87-119.

小学館・韓国金星出版社共同編集.1993.『朝鮮語辞典』.東京:小学館.

服部四郎.1960.『言語学の方法』.東京:岩波書店.
服部四郎.1979『新版　音韻論と正書法』.東京:大修館書店.
服部四郎.1984.『音声学』.東京:岩波書店.

謝辞

本稿作成の過程でインフォーマントとして筆者の意図を理解しかつ朝鮮語の指導にあたってくださった黄声遠氏に心からの感謝を捧げます。

【注】

（1）スラッシュ//を用いて音素を囲む。音素の異音または音声を大かっこ[ ]を用いて表す。音声表記にはIPA（国際音声字母）の諸記